

時がゆっくり流れ、何も考えずに
いられる場所

それがモンゴル大草原だった

何もない大地、真っ青な空、満天の
星、猛烈な砂塵…こんな経験めったにで
きない旅行でした。

今も強烈に印象に残っているのは、大
平原のはるか向こうに見える山々、蛇行
しているトーラ川、馬・牛・羊の群れ、
モンゴルブルーといわれる空の青さ。機
会があればもう一度行ってみたいと思
います。

ただ、現地の人聞いても環境の変化
は進んでいるそうです。数年前はもっと
草が生えていた。ウンドルシレットも年
々砂漠化が進み、緑の草原が減ってきて
いるとのこと。馬や牛もかなり瘦せてい
ます。あらためて地球規模の温暖化の深
刻さを感じることができました。今後、
自分でできることをしつかりやっていき
たいと考えています。

最後に、団体旅行は仲間次第です。楽
しい旅行をさせてくれた団員の皆さんあ
りがとうございました。これからも長い
お付き合いができる人たちはと思います。
皆さんに感謝するとともに、また、思
い出話に花を咲かせましょ。いつかまた
旅行できるといいですね。

会報モンゴル

ようこそ信州へ！

その16



ヌルセド オンダラ－さん 19歳
信州大学 経済学部 経済学科 留学生

モンゴル開港だよ

各種イベントに参加一

誰となつている。私は、経済の問題を解
決し、国民が健全に生きることのできる
環境を作りたいと考えている。そのため
に経済の専門家になろうと思った。国
の

将来は、日本で身についた知識や能力
を活かし、銀行や財務省に勤め金融シス
テムの改善のために努力したい。さら
に、教育機関や金融機関などで講演活動
を行いたい。また、書籍などの出版を通
じ、国民の知識の向上に努めたい。それ
がやがて、モンゴルの発展につながるも
のと信じている。

とあって松本市美術館での企画展
「P.O.P ART 展」の作品を食入るよ
うに観賞していた。その爽爽とした姿が
頗もしく、また美しくもあった。

インタビュー 事務局 西澤 寛

トピック

総選挙後の暴動発生に関する

6月実施された国家大議会総選挙後に
発生した暴動に関して、在モンゴル日本
大使館はモンゴル国外務省に対して、
平和的に民主主義へ移行し、その発展
に向けて努力して来たモンゴル国の総選
挙後の暴動は残念。関係者間の対話を通
じて早期かつ、平和的に事態解決が図られ、
民主主義が一層発展することを願
すると、日本の立場を伝達した。

外務省公報より



◇ 例年行なわれる「」もる地球人まつ
り」が小諸市立南美が丘小学校で6月
1日(日)に開催され出席。

◇ 5月31日(土)～6月1日(日) 松本
市やまびこームで開催された「信
州夢フェスタ2008」に信大経
済学部の留学生2名の応援をいただき
て出展。

■ ダルハン市から記念品を授与される

事務局からのお見聞

ホームページを開設しました。
<http://www.avavis.ne.jp/~mongol>

TEL・FAX
026-235-6717
携帯090-1628-5506
事務所
〒390-0838 長野市東町5-28
当協会の活動に記念品が贈呈された。

先般「信州夢街道フェスタ」の出展をお
手伝いいただいた彼女と、お約束の松本
市美術館の中庭でお会いした。彼女も新
東北地方出身。小さい頃からTVや新
聞・雑誌で先進国のような生活を知り、何
とかしてモンゴル人の日常生活を改善し
なければと思い、機会があれば外国で勉
強したいと考えていた。

日本はアジアにあって、ODAにより
モンゴルへの支援は抜群で友好関係は良
好だから、モンゴルの発展にとって日本
で学ぶことが、最善の道だと思った。
信州大学には諸先生が留学していて、
専門的に学び、社会・経済問題を多様に
研究もしている。

現状のモンゴルには色々な社会問題が
ある。健康で幸せな生活を送ることが困
る